

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211N201	公衆衛生学 (産業保健を含む) (Public Health)	専門基礎科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	前	木・2	山岡 吉生、赤田 純子、松本 昂 内線：5742 E-mail：yyamaoka@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

公衆衛生は人類の医学の発展や福祉に大いに貢献してきた結果、日本人は長寿を謳歌している。公衆衛生がこれまでどのようにして医学の発展に寄与してきたかを学び、現代の医療の現状と問題点から、予防医学など未来の医療のあり方を理解したい。また、日本と世界の医学・医療の現在を概観したい。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 公衆衛生学の基礎を理解し、健康と疾病の概念を理解できる。	○			○	○		○
2. 食品保健、学校保健、環境保健、産業保健、母子保健など我が国の保健政策を理解できる。	○		○		○		○
3. 感染症対策、予防医学、国際保健に関する国際的な動向を理解し、我が国における概要を説明することができる。	○		○	○			○
4. 医療体制および社会保障における我が国の政策を理解できる。	○		○	○	○		○
5. 生命科学技術の発展が医療に与える影響について、利点・問題点を挙げるができる。	○	○				○	○

【授業の内容】

1	ガイダンス
2~4	公衆衛生概論 公衆衛生の歴史と理念、現在の公衆衛生システム、健康指標、集団アプローチ
5~14	公衆衛生各論 子どもと保健、高齢者保健、成人保健、歯科保健、精神保健、環境保健、学校保健、産業保健、難病、感染症
15	まとめ

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	小テスト、学習レポート	・学生が自分で考えて公衆衛生に関する課題を見つけ、その課題に関するプレゼンテーションやグループ・ディスカッションを行い、理解を深める。
B：意見の表現・交換	○	発問、ディスカッション	
C：応用志向	○	事例研究	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	次回の学習内容について、参考書等を用いて概要を把握する (15h)
事後学修	授業で配布したプリント資料、参考書および小テストを用いて授業で学習した内容を復習する (15h)

【教科書】

特に指定せず、配布資料を使用する。

【参考書】

公衆衛生マニュアル 2023 改訂 41 版. 中村好一他 2023 年南山堂出版, ISBN: 978-4-525-18751-4
公衆衛生がみえる 2022-2023. 安藤 雄一他, メディックメディア 2022 年出版, ISBN: 978-4-89632-858-5

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5
小テスト、学習レポート	10%	○	○	○	○	○
期末試験	90%	○	○	○	○	○

【注意事項】 特になし

【備考】 特になし

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	山岡 吉生 (医師)、赤田 純子 (化学関連企業)、松本 昂 (健康運動実践指導者)	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	吉川 政治 (環境行政職)	
実務経験をいかした教育内容	医師や行政職等の経験を活かし、疾病の病態、診断および病理学的所見について学ぶと共に、公衆衛生課題における医学、健康、福祉等の総合的な学習理解に取り組む	
授業形態	面接授業	